

「誕生曜日名」再考

以前、本連載第44回で、西アフリカの誕生曜日に因む名前を取りあげた。この特色のある名前は、西アフリカのベナン、トーゴ、ガーナ、コートジボワール各国のクワ (Kwa) 語系トゥイ (Twi) 語群に分類される人々の間に見られる。彼らが住むのは、アフリカ大陸を角の生えた頭蓋骨に見立てると後頭部下縁に当たる、ギニア湾沿いの熱帯雨林地帯である。

■ズレの意味とンクルマ

まず、連載第44回を振り返り、高根務と原口武彦が紹介したアカン人 (ガーナ) とパウレ人 (コートジボワール) の誕生曜日名 [松本脩作・大岩川嫩 (編) 『第三世界の姓名』、1994] を纏めて、対照表として示しておこう——どちらも最初が男性名、次が女性名 (以下同様)。

	アカン	パウレ
月曜日	コジョ / アジョア	クワシ / アキ
火曜日	クワベナ / アベナ	クアデオ / アジョア
水曜日	クワク / アクア	コナン / アメナ
木曜日	ヤオ / ヤー	クワク / アフ
金曜日	コフィ / アフィア	ヤオ / アヤ
土曜日	クワメ / アマ	コフィ / アフエ
日曜日	クワシ / アコスア	クワメ / アモワン

私は、若干の資料批判を試みた後で、両者の類似と共に、一日のズレを指摘しておいた。同じトゥイ語系アカン群 (後述) に分類される近縁の2つの民族に見られるこのズレが何を意味するのか、当時、私なりに密かに考察を進めた。そして、或る仮説を立てたが、論証の手掛かりが少なく、書かずにおいた。ところが、その後、思いがけない仕方で一つの確証を与えられた。それは、ガーナ建国の父、クワメ・ンクルマの命名に関する隠された事実だった。

そこで、今回と次回は、①アカンとパウレの誕生曜日名における一日のズレの意味と、②ンクルマが生まれた実際の曜日について再考してみたい。そのために、今回はトゥイ語群の人々の誕生曜日をもう少し詳しく見ておこう。主に参考にしたのは、二つの初期の報告である [Quartey Papafo, A. B., “The Use of Names among the Gas or Accra People of the Gold Coast”, *Journal of the African Studies* 13, 1914. Migeod, F. W. H., “Personal Names among Some West African Tribes”, *Journal of the African Society* 57, 1917]。

■トゥイ語系の曜日名

トゥイ語群の言葉を話す人々は、1. エウエ (Ewe) 群、2. 中央トーゴ群、3. アカン (Akan) 群、4. 潟湖群に大別される。本稿の考察対象は、民族学的な報告があるエウエ群のガ (Ga) 人とエウエ (Ewe; またはEphe) 人、ならびにアカン群のアカン人とファンティ (Fanti; またはFante) 人である。

これらの人々は、7つの曜日からなる伝統的な週の観念をもっている。次に、それを現行の西欧の曜日名に当てはめて一覧しよう。

	Ga	Ewe	Akan	Fanti
月	Dsu	Dzoda	Dwada	Dwada
火	Dsufo	Brada	Benada	Benada
水	So (Shor)	Kusa	Wukuda	Wkuda
木	Soo	Yawada	Yaw'da	Yaw'da
金	Soha	Fida	Fida	Fida
土	Hoo	Memlesa	Memeneda	Memenda
日	Hoogba	Kwasida	Kwasida	Kwasida

アカン群のアカンとファンティの曜日名は全く同じで、エウエ群のエウエのものも近似する。

だが、ガではすっかり異なっている。ガの相隣接する曜日名は対状に配列されていて、古くは3つの曜日からなる週の観念があったのかという憶測に誘われるだろう。

エウエ群は、アカン群から言語、文化、社会の様々な側面で大きな影響を受けた。ガとエウエの曜日名は、その影響の強さや深さの違いの一端を示しているといえそうだ。

■アカン群の誕生曜日名

では、誕生曜日名はどうだろうか。まず、アカン群の場合を次の表に纏めてみよう。

	Akan	Fanti
月	Kwadwo / Adwowa	Kudjo / Ajui
火	Kwabena / Abena	Kobina / Abraba
水	Kwaku / Akua	Kweku / Ekua
木	Yaw / Ya, Yawa	Kwo, Kwaw / Aba
金	Kofi / Afua	Kofi / Efoa
土	Kwame / Amma	Kwamina / Amma
日	Kwasi / Akosua, Akwasiba	Kwesi / Akosua

アカンの資料は、先に挙げた高根のものとかかなりよく符合する。そして、アカンとファンティ両民族の誕生曜日名が、音声上の多少の差異はあっても、よく対応しあっていることがわかる。そして、特に重要なのは、それらが週の曜日名ともよく対応していることである。

次に、エウエ群の誕生曜日名を見よう。

	Ga	Fanti
月	Kojo / Ajua	Kodzo / Adzoa
火	Kobla, / Abla Kwabina, Kobina	Komla / Abra
水	Kwaku, / Aku, Kweku Akua	Aku, / Akuwa Anku, Koku, Kowu,
木	Yao, Kwao / Yawa, Aba Yawo	
金	Kofi / Afua, Afia	Kofi / Afiba

土	Kwarmine. / Ama Kwame	Komla / Ama
日	Kwesi, / Akosia Kwash	Kosi / Akosiba

この表は、エウエ群両民族の間だけでなく、それらとアカン群のものとの間にも大差がない事を示す。つまり、ガの場合も、誕生曜日名はガ自身の曜日名ではなくアカン群の曜日名と対応するのだ。すると、ガの、ひいてはエウエ群の誕生曜日名がアカン群の影響下で成立したといえよう。

■エウエ人の挨拶名

それにもかかわらず、エウエ人の間では誕生曜日名の用法がアカン群よりも複雑である。上の表からわかる通り異名が多い。それだけでなく、挨拶に用いるに特別の名前がある。それらは、Ame (月)、Awusi (火)、Adzo (水)、Abra (木)、Aku (金)、Awo (土)、Afi (日) である。これを「挨拶名」と呼んでおこう。挨拶名には男女差がなく、異名もない。

挨拶する者は、相手に対して、自分と同じ誕生曜日の者を代表して、その曜日の挨拶名で呼びかける。そして、相手もまた同様に応答する。我々は、連載第44回で紹介した高根の報告をすぐに思い出すだろう。高根は、ガーナの街頭のそこそこで繰り広げられる、誕生曜日単位の募金合戦の華やぎを楽しげに描いていた。

ただ、その慣行とよく響き合う挨拶名はアカン群の人々にはなく、アカン群から誕生曜日名を取り入れたエウエ人が用いている。これは慣行の複雑さや実際性とその古さの証とならない好例だといえるだろう。

(こんまとおる 神奈川大学 社会人類学者)